

# 研究紹介

知性・創造性

## 知性・創造性を育む

### カリキュラムマネジメント

基礎学力の保障と他者とのかわりを通して知性を育むために

田布施町立麻里府小学校長

谷岡 康幸



#### 一 要旨

本支部では、知性・創造性を育む上で核となる学力向上について、これまで「基礎学力の保障」「他者とのかわりを通して活用力の育成」をめざして各校で取り組んできた。それらの取組を持ち寄り、県教委の示す四つの視点から見直し、校長としての役割を「教職員意識改革」「校長間の連携」「家庭・地域への働きかけ」の三つにまとめた。それをもとに各校での充実を図り、成果や課題として共有したい。

#### 二 本支部の取組

##### (一) 基本的な考え方

創造性は知性が形として表出されるものであり、学力向上の取組は知性・創造性を育む上で核となると考え、「基礎学力の保障」「他者とのかわりを通して活用力の育成」を視点に、各校の取組を充実させていく。

##### (二) 基礎学力の保障

ア 学習プリントの徹底活用



学力定着のための時間の特設  
～チャレンジ学習（全校一斉学習）～

- イ 学力定着のための時間の特設
- ウ 各校独自の定着確認システム
- エ 家庭学習の定着充実と学力向上を支える生活習慣の改善
- (三) 他者とのかわりを通して活用力の育成
  - ア 授業改善
  - イ 言語活動の充実
  - ウ 進んでかわっていく意欲、態度の育成

#### 三 取組の見直し

こうした取組を、「学校の組織的な取組」「指導方法の工夫改善」「学習環境の整備」「学習習慣の確立」の四つの点から見直し、校長の役割を検討していった。

#### 四 校長の役割

##### (一) 教職員の意識改革

校長自らが学校の現状と課題をしっかり把握した上で、重点目標と達成に向けた手だてを明確に示す。これをもとに、分掌会議やプロジェクトチーム会議を通して全教職員で具体策を立案させ、全校で共同実践を進めていく。中間評価で成果を実感させていくと同時に、課題を分析し次の一手へとつなげていく。このようにして、教職員が参画するPDCAサイクルの中で、教職員個々の意識改革と協働体制の強化を図っている。

##### (二) 校長間の密なる連携

三町それぞれで中学校区を単位に連携を進めている。実効性をもたせるため、機会をとらえて小中および小小の校長間連携を図っている。

##### ア 校長会での授業参観・協議

##### イ 交流活動・合同授業の推進

##### (三) 家庭、地域への積極的な働きかけ

家庭や地域の理解と協力を得るためには、校長自身が学校経営ビジョンや全校的な取組について、直接説



校長室からの発信  
～ビジョンや取組を直接届ける～

明することが不可欠である。学校だより、校長室だより、校長日記などの各種通信の発行、折々の全校懇談会や各種会合でのあいさつなど、機会をとらえて発信している。

また、各種通信の頒布や掲示箇所の新設・増設にも努めている。

#### 五 今後に生かすために

(一) これまでの学力向上の取組を継続・発展させていくために、より明確に教育課程上に位置づける。

また、全校実践体制を強固にするために、学力向上推進担当を中心に、進捗状況の確認や情報交換を計画的に進めるため組織面の整備を進める。

(二) 協働して取り組み続ける教職員集団の育成を図る。

(三) 学校の規模や教職員構成、児童や家庭・地域の実態などに応じて、取組の内容や手順、方法、時期などについて、校長は柔軟に対応する。